



クローズアップ
CLOSE UP

写真家が見た過去現在

アーツ前橋で企画展「萩原朔太郎大全2022 朔太郎と写真」と日常風景の中の潜在的な景色を感じる「潜在景色-Latent Scenery」を3月5日(日)まで開催。12月3日には写真を使わず参加者が作った言葉の地図で写真的体験をするワークショップ「見えない風景」を開催しました。



未来へつなぐ記念式典

厩橋学校として明治5年に開校し、今年開校150周年を迎えた桃井小が11月22日、記念式典を開催しました。式典では児童も作詞に参加した記念歌「次の一歩 その先の未来へ」を初披露。また、世界で活躍するピアニスト・西川悟平さんが講演と演奏で式典を盛り上げました。



18歳に向けて模擬投票

12月1日、市立前橋高で模擬市長選挙を実施。共愛学園前橋国際大の学生を立候補者として、高校生たちが演説を聞き、投票しました。計数機を用いた開票体験や市選挙管理委員会事務局による投票率低下などの説明も受け、有権者になる前の、準備の機会となりました。

いきいき
まえばし人

アジアユース模擬国連に参加
丸山夢路さん・17歳
市立前橋高2年

夢を持って挑戦し続けたい



昨年9月30日から10月3日までマレーシア・クアラルンプールで開催されたアジアユース模擬国連に参加した丸山さん。「模擬国連とは、参加者が実在する国の大使に扮して、国際会議で議論するものです。私はエクアドル大使として、国連児童基金(ユニセフ)の会議に参加しました」

「白熱した議論が繰り返される場面もあり、さまざまな国から集まった、目的を同じくする仲間たちから刺激を受けたという。『今回の模擬国連への参加で得たものは多く、世界について考えることも大切ですが、まず自分の国のことを知り、考えていかないといけないと感じました。また挑戦したいです』

将来は海外でビジネスを展開し、家業の力にもなりたいたいと夢を抱いている。

「安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて、自分ごととして考えていくことが大切です。今回のテーマは「もの忘れがちよつと気になる人の会(認知症本人ミーティング)」です。

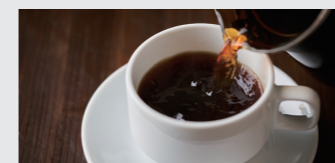
皆さんは認知症の人の声に耳を傾けて生活していますか。認知症の人が自身の思いや願いを率直に語り、地域の人たちと共有する機会がこれまでほとんどありませんでした。認知症の人が分かり合える仲間と出会い、地域の人と一緒に語り合いながら、住みやすいまちづくりについて考える場として始まったのが「本人ミーティング」です。



Vol.5
もの忘れがちよつと気になる人の会
(認知症本人ミーティング)

認知症ケアパス
認知症に関する情報を掲載しています

☎ 027-898-6133



11月の様子

定期的開催されています。認知症の人が自らこだわりの豆をひいて入れたおいしいコーヒーをみんなで飲んだり、くつろいだ雰囲気の中、現役時代の職業や趣味の話題で盛り上がりたります。「いつかまた登山に挑戦したい」、「いつまでも大好きなゴルフを続けたい」などの本音や希望に、互いに興味津々で耳を傾ける場面も。

11月の開催では、認知症の本人とその家族2人が参加しました。「地域で暮らし続けるには、家族だけでは対応できなくなる日がいずれくると思う。近所や地域の人にも見守ってもらえるよう認知症のことを隠さずに伝えている」と家族からの話がありました。

本会には、認知症の人と家族の会(群馬支部)、地域密着型サービス連絡協議会、認知症疾患医療センター、長寿包括ケア課の職員も一緒に参加しているので、気軽に相談できます。詳しくは、同課まで問い合わせてください。